編集後記

◆梅雨が明け，暑くなってきましたが，お元気でしょうか．梅雨の時期には集中豪雨があり，地質災害が起こり多くの人命が失われました．残念なことです．我々は生活空間を求めて斜面などの地質災害の危険地帯に立ち入らざるをえなくなっています．人智は未だ自然の力を制御することはできないようです．生活を防衛するためには，自分達の生活している場所の地質を知っておくことが重要ではないでしょうか．

◆さて，今月号は二つの特集記事で構成しました．一つは「生活と地質」の3回目として，地下水の問題，重力探査による都市地下構造，骨材資源について紹介されています．あるセミナーで，関東大震災に備えて，手押しポンプの井戸を広く確保しておくべきだという話がなされた時に，東京の地下では地下水が枯れて砂漠みたいなところがあるからよく調べてからでないと役立たないとの意見があり，考えさせられました．水はどこにでもあると考えるのは間違いのようです．また，我々の生活と地下水汚染の関係など考えなければいけない地質的問題が沢山残されているようです．地質屋はまだまだ不滅の存在です．

◆ところで，骨材って何かご存じですか．骨材とはコンクリートを作る時に使われる砂や礫を指す言葉です．今，道路やビルなど社会基盤を整備するためにコンクリート化が世界中で急速に進行しています．このための骨材の調査・研究は日本では研究者も少なく(3人？)なじみの薄いものですが，世界的には大変重要な研究として位置づけられています．

◆もう一つの特集は，本年5月に秋田県八幡平澄川温泉で起こった大規模な地すべり災害の緊急調査の結果の紹介です．あるテレビの番組で「八幡平地すべりの謎」という報道がありましたが，何が謎なのか判らずに終わりましたが，それに較べて，本誌の記事の方が判りやすいと思いますので，ご一読ください．

◆須藤氏の東南アジア鉱物資源の話は，紙面の都合上8月号に掲載します．ご期待ください．

◆毎年8月に科学技術庁主催で全国の高校生を対象にしてサイエンス　キャンプが筑波で開催されております，地質調査所も今年から野外巡検を行うことで参加することにしました．高校から地学が消えた状況では応募者はないのではないかと心配しておりましたが，日本全国から地学を学びたいと希望する男子生徒3人，女子生徒5人が参加してくれることになり，感激しております．来年も実施しますので，是非，応募して下さい．今年は自信が持てなかったため定員を8人にしましたが，応募者が多ければ定員を増やしたいと考えています．高校生の皆さん，待っていますよ．

(有田正史)

地質ニュース編集委員会
委員長：有田正史
副委員長：石井武政
委　員：佐藤興平・今井　登・村上文敏・大熊茂雄
顧　問：林　暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋　博
事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）
〒305 つくば市東1−1−3　地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局　Tel. 0298−54−3520
Fax. 0298−54−3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第515号　1997年　7月号
定価￥785 (本体価格￥748)　〒実費
1997年7月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
Tel. (03)3265−0951（代表）〒102
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　株式会社　ケイ・トゥー・ワン

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター，八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．